

「太陽光発電の普及は、環境問題の解決に大きく貢献する」として、太陽光発電の普及を推進している。また、太陽光発電の普及は、環境問題の解決に大きく貢献する」として、太陽光発電の普及を推進している。

「太陽光発電の普及は、環境問題の解決に大きく貢献する」として、太陽光発電の普及を推進している。また、太陽光発電の普及は、環境問題の解決に大きく貢献する」として、太陽光発電の普及を推進している。

「太陽光発電の普及は、環境問題の解決に大きく貢献する」として、太陽光発電の普及を推進している。また、太陽光発電の普及は、環境問題の解決に大きく貢献する」として、太陽光発電の普及を推進している。

「太陽光発電の普及は、環境問題の解決に大きく貢献する」として、太陽光発電の普及を推進している。また、太陽光発電の普及は、環境問題の解決に大きく貢献する」として、太陽光発電の普及を推進している。

# こだわり ecoパーツ

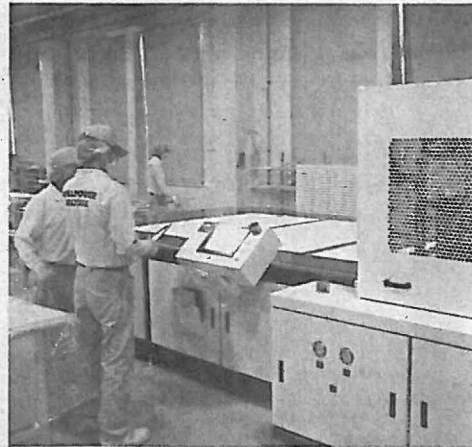


木村 賢太氏

## デンカシンキ

社長

1階には太陽光発電の能力で年間1万2千ワットの太陽光パネルの生産設備がずらりと並び、十数人の社員は白色でおそろいの作業服をまとう。製造装置の運転を操作したり、はんだ付けや完成品を検査したりと与えられた役割をこなす。6彩角



デンカシンキの松山工場は2年後にフル稼働を目指す（松山市）

### 27歳で独立・起業。安いパネルと電力買い取りで事業者にメリット

り、オール電化製品の普及の流れに乗った。ほとんど2009年11月に太陽光発電の余剰電力を1キロワット48円と高額で電力会社が買い取る制度が始まった。「太陽光が普及する時代が間違いなく来る。いつか工場をつくることができるはず」。他社の太陽光パネルメーカーの製品を仕入れて訪問販売で売り歩いた。平日の週4日、1日12時間勤務の体制を敷きながら、需要の拡大に備えている。

# 自前太陽光パネルで新電力

デンカシンキ(松山市)として。は自社生産した太陽光パネルの出荷を6月に始めた。家庭向けの給湯器の販売や保守点検が副業だが、再生可能エネルギー普及を目指して参入した。創業者の木村賢太社長(42)は新電力への参入に向けた登記手続きも進めており、太陽光パネルで発電した電気を売って、事業領域を広げよう

の太陽電池のセルを直列に10枚、6段をつなぎ、1枚あたりの発電能力が277ワットの住宅用太陽光パネルをつくる。「大手がある」

木村氏は27歳で給湯器の販売や保守点検の会社から独立、起業した。電気式給湯器「エコキュート」の発売時期とも重なった。順風が続いた訳ではない。14年10月に工場は稼働したが、実際に住宅用パネルの出荷が始まったのは6月だ。太陽光パネルの認証機関から認証を取得するまで時間がかかったからで、その間は在庫が積み上がる毎日で売買取断。木村社長が描く青写真はこうだ。「発電事業者に安い電力を供給し、電気が電力会社よりも高く買い取る」。発電事業者がメリットを享受できる仕組みを考え、パネルの販売も新電力の採算にも合うように探る。

## 環境・エネルギー

(後藤健)